年間授業計画　新様式

高等学校 令和7年度（２学年用） 教科　地歴・公民　科目　公共　年間授業計画

単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　A、B、C、D、E　組

教科担当者：（ A～E組　：　盛　健二　）

使用教科書：（ 第一学習社　「高等学校　公共」　）

教科　**地歴・公民**　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
広い視野に立って，現代の社会について主体的に考察させ，理解を深めるとともに，人間としての在り方生き方についての自覚を育て，平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う。	現代の政治，経済，国際関係に対する関心を高め，意欲的に課題を追求するとともに，国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治，経済，国際関係に対する関心を高め，意欲的に課題を追求するとともに，国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。

科目　**公共**　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ，現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	・現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ・現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	・よりよい社会の実現を視野に，現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や，公共的な空間に生き国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

	単元名・指導項目・内容	単元の具体的な指導目標	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	Ⅰ-①社会に生きる私たち Ⅰ-②個人の尊厳と自主・自律 Ⅰ-③多様性と共通性 Ⅰ-④キャリア形成と自己実現 Ⅱ-①伝統や文化とのかかわり	・社会に参画する自立した主体とは，孤立して生きるのではなく，地域社会などのさまざまな集団の一員として生き，他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。 ・公共的な空間において社会に参画する自立した主体となるために，青年期を生きる私たちは，何を考え行動すればよいかを理解する。 ・公共的な空間で生きていくために必要なこととして，個人として尊重されることや，対話を通して他者を理解することを学ぶ。 ・伝統や文化と，自らの行動様式や考え方との関係について理解する。 ・生涯にわたって学習していくことの意義を考える。	社会に参画する自立した主体とは，孤立して生きるのではなく，地域社会などのさまざまな集団の一員として生き，他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。 ・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか，自らの体験などを振り返ることを通して，自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。 ・人間は，個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに，対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高めあうことのできる社会的な存在であることを理解している。 ・公共的な空間と人間との関わり，個人の尊厳と自主・自律，人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 ・孤立して生きるのではなく，地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるとともに，異文化などの他者との協働により，人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察，表現している。 ・自分自身が，自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが，自らのキャリア形成とともに，よりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 ・伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。 ・公共的な空間をつくる私たちについて，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	7
	Ⅰ-①人間と社会のあり方についての見方・考え方 Ⅰ-②実社会の事例から考える～環境保護 Ⅰ-③実社会の事例から考える～生命倫理 Ⅱ-①公共的な空間を形成するための考え方 Ⅱ-②よりよく生きる行為者として活動するために Ⅲ-①選択・判断の手がかりとなる考え方，Ⅰ-②将来世代に受け渡したい環境，Ⅰ-③生命倫理をめぐる取り組み，Ⅱ-①結果と義務の考え方／結果の考え方と思想的背景／義務の考え方と思想的背景，Ⅱ-②よりよく生きる行為者としてのあり方／古代ギリシャにおける人間としてのあり方／公共的な空間でどのように生きるか	古今東西の先人の取り組み，知恵などを踏まえ，社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し，環境保護や生命倫理など実社会の問題を考える。					
	定期考査			○	○	○	1
	Ⅰ-①人間の尊厳と平等 Ⅰ-②個人の尊重 Ⅰ-③民主政治の基本的原理 Ⅰ-④法の支配 Ⅰ-⑤自由・権利と責任・義務 Ⅱ-①世界のおもな政治体制 Ⅱ-②日本国憲法に生きる基本的原理Ⅲ-①公共的な空間の基本的原理／人間の尊厳／差別や偏見との闘い／社会への参画，Ⅰ-②個人の尊重と基本的人権の保障／個人が尊重されるために，Ⅰ-③私たちと政治／近代民主主義のつながる思想／国民主権と議会制民主主義，Ⅰ-④法の支配と人の支配／国民主権と権力分立，Ⅰ-⑤社会への参加／私はどこまで自由か／自由・権利と責任・義務，Ⅱ-①さまざまな政治体制／議院内閣制／大統領制／そのほかの政治体制，Ⅱ-②明治憲法と日本国憲法／日本国憲法の成立／日本国憲法の特徴／憲法に生かされる基本的原理／憲法の最高法規性／日本国憲法と立憲主義主題４政治参加と公正な世論形成 ①選挙の意義と課題 ②政治参加と世論形成 ③国会と立法 ④内閣と行政の民主化 ⑤地方自治と住民の福祉 主題５ 国際社会と国家主権 ①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合の役割と課題 主題６ 日本の安全保障と防衛 ①平和主義と安全保障 ②核兵器の廃絶と国際平和 主題７ 国際社会の変化と日本の役割 ①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本の役割	古今東西の先人の取り組み，知恵などを踏まえ，社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。 ・選択・判断の手掛かりとして，行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や，行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ①生活を豊かにする契約／契約とは／契約自由の原則／契約自由の原則の修正，②18歳で成年（成人）に／情報の非対称／消費者の権利と自立／消費者市民社会　・民主政治を推進するために，私たちが果たすべき責任を理解する。 ・人種・民族問題と地域紛争の背景，現状を理解する。 第３章　経済的な主体となる私たち ・少子高齢化による労働力不足が問題となる中，活発な経済活動と労働者の働きやすさをともに成り立たせるために必要なことを理解する。 ・経済の基本的なしくみを理解し，経済的意思決定が将来の選択に役立つことを理解する。 ・労働者を守るための法や権利を理解する。 ・労働問題やその背景にある社会の変化を理解する。 ・グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において，将来の働き方をどのように考えていけばよいかを学ぶ。 ・第二次世界大戦後から現代までの日本経済のあゆみと，現代の経済の課題を理解する。 ・情報化の進展が日本経済や中小企業・農林水産業の課題の解決にどのようにはたらいているかを理解する。	選択・判断の手掛かりとして，行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や，行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 ・環境保護や生命倫理に関する事例をもとに，自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け，選択・判断の手掛かりとしての二つの考え方をもとに，行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが，よりよく生きていくうえで重要であることについて理解している。 ・倫理的価値の判断において，行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方と，行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し，自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け，思考実験などを通して，多面的・多角的に考察，表現している。 ・人間としてのあり方生き方に関わる諸資料から，よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し，読み取る技能を身に付けている。 ・幸福，正義，公正などに着目して考えている。 ・公共的な空間でどのように生きるかについて，先哲の生き方などを参考に，人間としてのあり方生き方について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。古今東西の先人の取り組み，知恵などを踏まえ，公共的な空間における基本的原理を理解する。 ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して，人間の尊厳と平等，協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが，公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。 ・個人と国家・社会との関係から，世界のおもな政治体制について，自己のあり方生き方と民主主義がどのように関係しているか理解している。	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1
	①選挙の意義／さまざまな選挙制度／日本の選挙制度／日本の選挙制度の現状と課題／選挙の重要性，②民主政治と世論／公正な世論を形成するために／政党の役割／政党政治／日本の政党政治と圧力団体／民主主義の主体としての自覚と政治参加，③国会の地位と構成／国会の運営と権限／衆議院の優越／国会の現状と改革，④内閣と国会の関係／内閣総理大臣と内閣の権限／行政機能の拡大と民主化／行政改革／新しい行政の役割を求めて，⑤民主主義の学校／地方自治の組織と運営／地方分権の推進／地方財政の危機と地方行政の課題 ①国際社会のしくみと特質／国際法の意義／国際裁判制度，②国境／国境と領土をめぐる問題，③勢力均衡と集団安全保障／国際連合の役割／国際連合の課題／国際平和の実現に向けて ①平和主義の理念／戦争放棄／自衛権と憲法第９条／改変される自	・民主政治を推進するために，私たちが果たすべき責任を理解する。 ・選挙の意義や課題，世論の形成や政党の役割を理解する。 ・主権者である国民と国会・内閣の関係を理解する。 ・地域社会の課題に，私たちの意思を反映させるにはどうすればよいかを理解する。 ・主権国家が並び立つ国際社会は，どのように成り立っているのかを理解する。 ・領土問題の背景と現状を理解する。 ・国際社会の平和と安定を維持するための国	憲法の下，適正な手続きに則り，法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し，個人や社会の紛争を調停，解決することなどを通して，権利や自由が保障，実現され，社会の秩序が形成，維持されていくことについて理解する。 ・法や規範の意義と役割について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査 さまざまな契約と貴者の権利と責任 契約が対等な当事者間の合意といえるための条件を理解する。 ・成年年齢が18歳以上となったことに対し，成年年齢の意味と成年の責任について理				

2学期	近代市民社会の起源／民主主義／立憲主義／国際社会と紛争／戦争と人権／自衛権と憲法第９条／自衛措置／日本の防衛政策／安全保障環境の変容／安全保障論の変容／世界平和のために，②世界に広がる核兵器／多国間の核軍縮の取り組み／米ロ間の核軍縮の取り組み／核兵器のない世界に向けて／通常兵器の広がりと市民による規制／情報通信技術とＡＩ兵器 ①グローバル化する国際社会／グローバル化と情報通信技術／対立と分断の時代／国際協調のあゆみ，②さまざまな人種と民族／消えぬ戦火／人類共通の課題～難民問題，③日本の外交政策／日本に求められる役割	・国際社会が平和と安定を維持するための国際連合の取り組みを理解する。 ・日本国憲法の平和主義の下，私たちが果たすべき責任を理解する。 ・日本の安全保障体制の変容とその背景にある国際社会の変化を理解する。 ・軍縮に向けて国際社会や私たちには何が必要かを考える。 ・国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。 ・今日の国際社会の特徴について理解する。 ・人種・民族問題と地域紛争の背景，現状を理解する。	社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。 ・学習態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト 契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ，幸福，正義，公正などに着目して，多面的・多角的に考察し，表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。 ・契約と消費者の権利・責任について，現代の諸課題を具体的な例をもとに，主体的に解決しようとしている。 人権保障　法律家が重要な役割を果たしていることを理解している。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。 ・検察審査会や国民の司法参加の意義など，具体的な主題を設定し，その主題を追究・解決するために考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，合意形成や社会参画を視野に入れながら，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。 ・司法参加の意義について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	15
	定期考査				○	○		1
	主題10 市場経済の機能と限界 ①市場経済と経済運営 ②市場経済のしくみ ③経済発展と環境保全 ④経済成長と国民福祉 主題11 金融のはたらき ①金融の意義や役割 主題12 財政の役割と社会保障 ①政府の経済的役割と租税の意義 ②社会保障と国民福祉	・公正で自由な経済活動を通して，市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。 ・経済における政府の関わり方について，どのような考えがあるのか理解する。 ・市場における需要と供給の関係について理解する。 ・市場の失敗の例の一つである公害について，その種類や対策の取り組みを理解する。 ・国民所得や景気変動を理解し，私たちが豊かに暮らすための指標について考える。 ・経済において，金融市場はどのような役割を果たしているのかを理解する。 ・中央銀行は日本経済の状況に応じて，どのような金融政策をとっているのかを理解する。 ・社会の変化が，金融にどのような影響を与えているのかを理解する。 ・投資の意義や投資に必要な考え方を理解する。 ・少子高齢化が進む中で，財政や社会保障を持続可能なものにするために，政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 ・財政の意義やしくみ，日本の財政の課題を理解する。 ・社会保障の意義やしくみ，日本の社会保障制度の課題を理解する。	**・グローバル化の進展により，貧困や格差の問題，地球環境問題などの解決が，地球的な課題となっていることを理解している。・貿易の意義，円高・円安が生じる理由，貿易摩擦などについて，考察，構想し，表現している。・国際社会における貧困や格差が解消されていない現状について，国際機構の役割や政府開発援助の意義が大きいことを理解している。・地球環境問題が国際的な問題になっていることや，その解決に向けての取り組みを考察，構想し，表現している。・資源の有限性を理解しつつ，新エネルギーなどの開発が期待されていることを理解している。・地理など他教科で学んだ知識もふまえ，幸福，正義，公正などに着目して，政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ，多面的・多角的に考察し，表現している。・国際協力のあり方，国際協調の重要性から，日本の役割について自分自身の問題として，主体的に解決しようとしている。**	○	○	○	27
	定期考査				○	○	○	1
3学期	財政の役割と社会保障 ①政府の経済的役割と租税の意義 ②社会保障と国民福祉 主題13 経済のグローバル化 ①国際分業と国際貿易体制 ②国際収支と為替相場 ③経済のグローバル化と日本 ④地域的経済統合の動き ⑤国際社会における貧困や格差 ⑥地球環境問題 ⑦資源・エネルギー問題 ⑧国際社会のこれから 課題探究活動の展開例 ①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③生命倫理 ④情報 ⑤国際社会の課題	・少子高齢化が進む中で，財政や社会保障を持続可能なものにするために，政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。 ・財政の意義やしくみ，日本の財政の課題を理解する。 ・社会保障の意義やしくみ，日本の社会保障制度の課題を理解する。 ・経済がグローバル化する中で，貧困や格差などの問題を乗りこえ，すべての人が幸福に暮らすために，国際社会や私たちがどうあるべきか考える。 ・自由貿易と保護貿易の違いについて考え，自由貿易を進めるための国際機関の機能と役割を理解する。 ・外国為替相場の変動がおよぼす影響やその要因について理解する。 ・経済のグローバル化が日本経済にどのような影響をおよぼしているかを理解する。 ・地域的経済統合のメリット・デメリットを理解し，日本のこれからの貿易政策はどうあるべきか考える。 ・国際社会における貧困や格差の原因を理解し，発展途上国の経済成長のために何が必要かを理解する。 ・経済発展の負の影響として，地球環境問題や資源・エネルギー問題を理解する。 ・持続可能な地域，国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う，公共の精神をもった自立した主体となることに向けて，幸福，正義，公正などに着目して，現代の諸課題を探究する活動を行う。	・財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・財政政策の意義，日本の財政の課題を理解し，財政のしくみ，租税の意義と課題について，具体的に事例をあげて考察，構想し，主体的に考えている。 ・社会保障の意義を理解し，現在の社会保障の課題について考察している。 ・経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・貿易の意義，円高・円安が生じる理由，貿易摩擦などについて，考察，構想し，表現している。 ・地域的経済統合がもたらす影響について理解している。 ・国際社会における貧困や格差が解消されていない現状について，国際機構の役割や政府開発援助の意義が大きいことを理解している。 ・地球環境問題が国際的な問題になっていることや，その解決に向けての取り組みを考察，構想し，表現している。 ・資源の有限性を理解しつつ，新エネルギーなどの開発が期待されていることを理解している。 ・地理など他教科で学んだ知識もふまえ，幸福，正義，公正などに着目して，政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ，多面的・多角的に考察し，表現している。 ・国際協力のあり方，国際協調の重要性から，日本の役割について自分自身の問題として，主体的に解決しようとしている。 ・地域の創造，よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し，共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。 ・課題の解決に向けて事実を基に協働して考察，構想し，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして，論拠を基に自分の考えを説明，論述している。	○	○	○	11
	定期考査				○	○	○	
								合計 75